
ひねくれた電話

熊川修

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひねくれた電話

【Nコード】

N0418Y

【作者名】

熊川修

【あらすじ】

俺も、俺の両親も、ひねくれている。

だけどある日、父から珍しくメールが届いた。

その内容は、まったくの謎だったが。

「……何だコレ」

仕事を終えて帰宅し、パソコンのメールボックスを開いた俺はそうつぶやいた。

しかしこの部屋の住人は自分だけ。無意識のつぶやきに答える者などいやしない。

それでもつぶやかざるを得なかった。

それほどまでに、俺が目にしたこの新着メールは謎の本文が記されていたからだ。

差出人は、実の父から。件名は無い。そして謎の本文はというと。

『ナポレオン・ボナパルトがレジオンドヌール勲章を創設』

これだけである。

たったこれだけ。何度メールを開きなおしても、送受信を繰り返しても変わらない。

まったく意味の分からない、父からの突然のメール。

思えば、父からメールが届くなど何ヶ月ぶりだろうか。

俺の父は現在、故郷の実家で長年連れ添った母と暮らしている。大学受験に失敗して以来あまり話さなくなり、だんだんと家にいることが、顔を合わせることにすら苦痛を感じるようになった俺。

県外への就職を機に、両親の元から逃げるように1人暮らしを始めた。

以来、1度もあの家には帰っていない。というより、両親とは顔を合わせていない。

こうして父から……本当にたまに。たまに生存確認のメールが来る位だ。電話すらしない。

俺がそうであるように、両親も……特に母は、相当な意地っ張りだから尚の事。

それでも父からのぶっきらぼうな近況報告で、元気になっていることだけは知っていた。

数年に1度の報告メールだが。

その父から突然届いた、この謎メールである。何が言いたいのかわからない。

意味が分からなかったし、仕事で疲れていたし、内容について返信するのも面倒だったから、その日はそのまま寝た。

翌日。父にしては珍しくというか、何かあったのではないかと思うような事態が起きた。

まあ分かりやすく言うと、昨日の今日でまたメールが送られてきていたのだ。

それも、同日の内に2件も。

しかし内容はといえば、やはり意味が分からなかった。

『ホー・チ・ミンらがベトナムを結成』

『犯罪被害者保護法公布』

以上の2件である。

「……あの歳で、歴史の勉強でもしてんのか？」

俺は自分以外に誰もいない室内で、またしてもつぶやいた。

さすがの俺も、父の意図が気になって返信することにした。

いったいこれらの謎メールには、どんな意味が含まれているのかをメール越しに父へ問いただす。

俺が送ったメールへの返信は、すぐに来た。

その本文がこれだ。

『運輸通信省が運輸省に改組』

「だから……なに？」

1人暮らしで、パソコンに向かって無意識とはいえつぶやく独身男。

はたから見たら危ない人にしか見えないだろう。

それでもつぶやかざるを得ないというか、思わずつぶやいてしまっう、いらぬ魅力を持った父のメール。

それもこれも、父の……いや。俺も多少は含め、我が家のひねくれた性格がいけないのだ。

何か言いたいことがあるのなら、回りくどい言い方をせずに、ズバツと単刀直入に伝えればいいはず。

というか、普通の家庭ならそんなところで問題が発生したりしないだろう。

しかし我が家では、恥ずかしくったり何やらで、面と向かって言うことはもちろん、顔の見えないメールですらこの有様である。

当人に問いただしても、同じように謎のメールが返ってくるだけだと悟った俺は、自力でこれらのメール、その本文に隠された謎に挑むことにした。

が、すぐに挫折した。諦めが早いのも俺の悪い癖である。改善する気はないが。

どうでもいいかと思いついたとき、ふとそれらの本文の出来事についてネットで検索をかけ、調べてみた。

正直な話、それらの歴史的出来事についてはこの際どうでもいい。

問題は、これらの歴史的出来事がある点で共通していたこと。

それに気付いたとき、俺はまたしても独りつぶやいてしまっていた。

「そっか……来週は」

今日は、5月13日。

父からの謎メールに記載されていた、歴史上の有名な出来事。共通している点というのは、それらが起こった日付。

それは、5月19日。

謎メールの1通目が送られてきたのが昨日。

ちょうど1週間後に起こった歴史の出来事を、父はメールしてきていたのだ。

その日付を知らせるために。

その日を俺に思い出させるために。

俺はすぐに父へメールを返した。

これらのメールに隠された、父の意図が分かったことを伝える。

返信は、すぐに来た。

だけど、やっぱり内容は父らしいものだった。

『母さんは最近、何かといえばお前の名前を口にしている』

今度は謎のメールじゃない。

だけど、やっぱり本文はこれだけである。

「ったく……しょうがないな」

俺はぼやきながらも、傍らに転がっていた携帯電話を開く。

ダイヤルした先は、母の携帯電話だ。

我が家はみんな、ひねくれている。

それは電話でも、メールでも変わらない。

それでもいいだろう。どこかで繋がっていれば。

それでもいいだろう。どこかで分かり合えていれば。

そんなわけで。

俺は、久々に母と通話をするハメになってしまった。
父から突然届いた、謎のメールに気付かされたせいで。

だけど、まあ仕方ないかと早々に諦め、俺は母にひねくれた電話をした。

「今の内に声を聴かせといてやらないと、安心して老衰死できないだろう」なんて、憎まれ口を叩きながら。

その日ぐらいは、母を安心させてやらないといけないだろうから。

5月19日。

それは、俺が生まれた日。

親子久々の、ひねくれた電話。

最後に俺と母が同時にお礼を言ったのには、ちよつと笑った。

(後書き)

以前「30分でお題を入れて小説を書く」企画にて執筆したものです。

その時のお題が『ひねくれた電話』でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0418y/>

ひねくれた電話

2011年10月30日03時20分発行